

CASBEE-広島 2014年版
特別養護老人ホーム(仮称)亀山の里

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-広島 2014年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								3.4
Q1 室内環境			0.40		-			3.3
1 音環境		2.7	0.15	2.7	1.00			2.7
1.1 騒音		3.0	0.40	3.0	0.40			
1.2 遮音		2.4	0.40	2.3	0.40			
1 開口部遮音性能		3.0	0.40	3.0	0.30			
2 界壁遮音性能		2.0	0.60	2.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	2.0	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	2.0	0.20			
1.3 吸音		3.0	0.20	3.0	0.20			
2 温熱環境		2.6	0.35	3.4	1.00			2.9
2.1 室温制御		3.0	0.50	3.0	0.50			
1 室温		3.0	0.38	3.0	0.57			
2 外皮性能		3.0	0.25	3.0	0.43			
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-			
2.2 湿度制御	居室の空調機には加湿+除湿機能付エアコンを採用	1.0	0.20	5.0	0.20			
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	0.30			
3 光・視環境		2.8	0.25	3.4	1.00			3.1
3.1 昼光利用		2.4	0.30	3.6	0.30			
1 昼光率	[別紙参照] Q1 3.1.1 昼光率 平面図にて算定	2.0	0.60	4.0	0.60			
2 方位別開口		-	-	-	-			
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.40			
3.2 グレア対策	事務・管理部門はブラインドと全周バルコニーによる庇により昼光制御 居室はカーテンと全周バルコニーによる庇により昼光制御	3.0	0.30	4.0	0.30			
1 昼光制御		3.0	1.00	4.0	1.00			
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	0.15			
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	0.25			
4 空気質環境		4.4	0.25	4.2	1.00			4.3
4.1 発生源対策		5.0	0.50	5.0	0.63			
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆以下の仕上材料は使用しない	5.0	1.00	5.0	1.00			
2 アスベスト対策		-	-	-	-			
4.2 換気		3.0	0.30	3.0	0.38			
1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33			
2 自然換気性能		-	-	3.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33			
4.3 運用管理		5.0	0.20	-	-			
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-			
2 喫煙の制御	全館禁煙とする	5.0	1.00	-	-			
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-			3.5
1 機能性		3.6	0.40	4.6	1.00			4.0
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	5.0	0.60			
1 広さ・収納性	個室面積は12.07㎡以上としており、多床室は無い	-	-	5.0	1.00			
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-			
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-			
1.2 心理性・快適性		4.0	0.30	4.0	0.40			
1 広さ感・景観	居室の天井高=2.5m	-	-	4.0	0.50			
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-			
3 内装計画	木質調の内装材を多用し癒しの内装計画。腰壁のモックアップを作	4.0	1.00	4.0	0.50			
1.3 維持管理		4.0	0.30	-	-			
1 維持管理に配慮した設計	防汚材料を積極的に採用し、モップ・ワックス掛けでメンテナンスが可	5.0	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-			
3 衛生管理業務		-	-	-	-			
2 耐用性・信頼性		3.3	0.30	-	-			3.3
2.1 耐震・免震		3.0	0.50	-	-			
1 耐震性		3.0	0.80	-	-			
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.6	0.30	-	-			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	床:長尺シート、壁:PB下地 ビニルクロス貼、天井:化粧PB 程度	5.0	0.10	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	[別紙参照] Q2 2.2.5 空調・給排水配管の更新必要間隔 にて評価	5.0	0.20	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔	電気・機械設備機器・器具などマニュアル補助資料より耐用年数を類	4.0	0.20	-	-			

2.4 信頼性			3.6	0.20	-	-	
1	空調・換気設備	区分運用が可能な様に空調ゾーニングを計画した	4.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備	節水措置、雨水利用、受水槽の災害・緊急時利用	4.0	0.20	-	-	
3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備	光ケーブルと緊急・災害(消防用)としてメタルケーブルを引込む	4.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			3.2	0.30	2.9	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり			3.4	0.30	2.8	0.50	
1	階高のゆとり		3.0	0.60	2.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	[別紙参照] Q2 3.1.2 空間の形状・自由さ(壁長さ比率)にて算定	4.0	0.40	4.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.2	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	建物周囲のスペースの余裕によりバックアップスペースは確保されて	4.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.5
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		奇抜な形態、カラーとならないように配慮した	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30	-	-	3.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域開放する多目的広場、地域交流スペース、歩道状空地等を設置	4.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.7
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.7
1 建物外皮の熱負荷抑制		モデル建物法[BPIm]にて評価	4.0	0.20	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI 非住宅 0.90 住宅(専有部) -	4.0	0.50	-	-	4.0
集合住宅以外の評価(3a.3b)		モデル建物法[BEIm]にて評価	4.0	1.00	-	-	
集合住宅の評価(3c)			-	-	-	-	
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	4.0
1 水資源保護			3.8	0.20	-	-	3.8
1.1 節水		給水する設備にはほぼ全てに節水コマを適用、省水型機器、音姫を	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.7	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	灌水利用として雨水貯留槽+灌水システムを設置している	4.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.3	0.60	-	-	4.3
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.13	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		地下下構造体には高炉セメントを採用	5.0	0.25	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		陶磁器質タイル、集成材、合板、フローリング、ビニル系床材	5.0	0.25	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.13	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		RC造、GL工法、LGS下地組を基本とする	5.0	0.25	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用		酢酸系のクロスのみを使用する	4.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		標準計算による	3.3	0.33	-	-	3.3
2 地域環境への配慮			3.8	0.33	-	-	3.8
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		建蔽率=27.33%とし余裕のあるレイアウトとしている	4.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			4.3	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
3	交通負荷抑制	駐輪場21台、駐車場72台(来客用12(内4台身障者用)、職員用52	5.0	0.33	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	1階ピロティにゴミ置場を3分画し設置、各ユニット汚物室にボックス設	5.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.3	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	全周バルコニー・庇を設置し太陽光の反射を物理的に遮断	4.0	0.30	-	-	